

令和7年度

施政方針



深谷市

本日ここに、令和7年深谷市議会第1回定例会を招集いたしましたところ、議員各位にはご参会を賜り、令和7年度一般会計当初予算案をはじめ、市政の重要案件についてご審議をいただきますことに、心から感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、全国的に地震や水害が多発し、各地に甚大な被害をもたらした年でありました。特に、鮮明に思い出されますのは、元日に能登半島地域を襲った最大震度7の地震と、9月に同地域を襲った大雨による被害であります。

私は、被災地の要請に積極的に応えるべく、避難所運営などに対応する応援職員や給水車の派遣、地域通貨ネギーを活用した義援金の募集など、できる限りの支援を行ってまいりました。

近年の自然災害は激甚化^{げきじんか}、頻発化^{ひんぱつか}の傾向にあります。私は、市政を預かる者として、災害への備えの重要性を強く再認識するとともに、被災地の惨状^{さんじょう}を知り、今もその報道に接するたびに、市民の生命と財産を守ることの大切さと、その責任の重さを痛感しているところであります。

今後も、安全・安心なまちづくりのため、災害に強いまちを目指し、引き続き、あらゆる事態を想定した防災・減災対策の取り組みを進めていく所存であります。

こうした自然災害に加えて、社会に不安な影を落としたのが、多発する犯罪事件でありました。匿名・流動型犯罪グループ^{とくめい}、いわゆる「トクリュウ」が、SNSなどを通じて「闇バイト」を募集して行う犯罪や日中に在宅

でも押し入る強盗、通り魔事件が世間を騒がせ、大きな社会問題となっております。国の統計によりますと、刑法犯認知件数は2年連続で増加し、犯罪被害の報道を耳にしない日はないほど多発している状況であり、警察をはじめとした関係団体との連携による地域の防犯対策の推進がより一層重要性を増してきております。

災害や犯罪など差し迫ったリスクへの対策も重要ですが、一方で、^{せんざいてき}潜在的に抱える社会不安として存在する人口減少問題にも向き合わなければなりません。

国の発表によりますと、令和5年における日本の出生数は過去最低の72万人となり、翌令和6年につきましても、70万人を割り込む公算が大きく、少子化がさらに人口減少を加速させ、国や地方自治体の将来に、深刻な影響を及ぼすことが^{ゆうりょ}憂慮されております。

こうした事態に対応するため、国では「こども家庭庁」を設置し、「こどもまんなか社会」の実現を目指すビジョンが示され、地方自治体を交えた全国的な取り組みが始まっております。

このような社会問題が注目を集める一方で、世の中を明るくしてくれる話題もありました。スポーツ界では、本市出身の^{たかくわ さ き}高桑早生選手が夏のパリ・パラリンピックに出場されました。大会前、「挑戦する気持ちを忘れずに戦っていきたい」と私に意気込みを語ってくれた高桑選手は、その言葉通り、女子走り幅跳びでシーズンベストを更新し、5位入賞という好成績を収められました。高桑選手はパラリンピックに4大会連続で出場されており、日本

女子陸上をけん引するアスリートとして、私たち市民に夢と希望、元気と笑顔を与え続けてくれています。

また、メジャーリーグでは、ロサンゼルス・ドジャースの大谷^{おおたにしょうへい}翔平選手が50本塁打・50盗塁という^{ぜんじんみとう}前人未到の記録を達成し、チームの優勝に大きく貢献いたしました。私は、大谷選手の恩師である栗山^{くりやまひでき}英樹監督と対談した経験から、活躍の報道に触れるたび、世界で活躍する日本人ということ以上の存在として身近に感じていました。栗山監督が大谷選手に「論語と算盤」を読むことを勧めていたことも承知していましたので、郷土の偉人の精神が、大谷選手の活躍に繋がっている気がして一市民としても誇らしく感じました。

そして何より最も大きな出来事は、昨年7月3日、ついに郷土の偉人渋沢栄一翁が描かれた新一万円札が発行を迎えたことであります。発行日前日、渋沢栄一記念館でのカウントダウンイベントを^{かわき}皮切りに、「東京証券取引所」において、福沢諭吉先生のふるさとである大分県中津市と「一万円札引継式」を行いました。その後、日本銀行の^{うえだ}植田総裁から新一万円札の贈呈を受け、その足で市民の皆様が待つ市役所で、お披露^{ひろめ}目をさせていただきました。

また、発行を記念し市役所通りで開催した祝賀パレードや、大河ドラマ「青天を^つ衝け」の出演者の方々をお招きしたスペシャルトークショーを開催し、たくさんの市民の皆様と喜びを分かち合うことができました。このように多くの皆様の支えがあつて新一万円札の発行を迎えることができ、感謝の念に^た堪えません。

しかし、発行はゴールではありません。ここからがスタートであります。この盛り上がりを一過性のものにしないよう、勢いを維持していかなければなりません。本年3月には渋沢栄一記念館等を会場とする王将戦関連イベントの開催、発行日である7月3日の記念日登録への取り組みや、発行から1周年を記念するイベントなども実施してまいります。

私は、栄一翁の勢いを追い風に、これを市の強み、市の魅力として、さらに発信し、市政発展に繋げるよう決意を新たにしたところであります。

さて、新一万円札発行という大きな時代の^{てんかんき}転換期を経て、これから本市は新たなスタートを切ってまいります。また、令和7年度は、私の市長就任4期目の最終年度であり、これまで本市のまちづくりをけん引してきた「第2次深谷市総合計画後期基本計画」が中間年を迎える年度でもあります。

これまでの3年間を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症による経済活動の停滞やロシアのウクライナ侵略などによる不安定な社会情勢、長引く物価高騰など、本市を取り巻く状況は著しく変化し、皆様の日常生活をはじめ、社会・経済状況にも大きな影響を与えることとなりました。

こうした中でも、私は4期目の就任にあたり、市民の皆様の暮らしが、より充実したものとなるよう、重点的に取り組む6つの視点を掲げ、その実現に向け、日々、全身全霊をかけて行財政運営に取り組んでまいりました。

まずは、少子化対策の基盤づくりであります。他市に^{さきが}先駆け、いち早く保育施設の保育料完全無償化を実現し、出産祝い金として0歳児子育て支援金を支給するなど、次代を見据えた子育て世代の負担軽減を進めることができました。

第2に、充実した教育環境の創造であります。市内全ての公立小中学校の児童・生徒に前倒しでタブレット端末を配布し、全国の学校とリモートで交流するなど、教育へのICTの活用を積極的に進め、学習環境の向上に努めてまいりました。また、英語指導の強化のための^{エイエルティー}ALTの大幅増員をはじめ、学校総合支援員など学校現場のスタッフを充実させ、子どもたちの学びを充実するための基盤づくりを行うことができました。

第3に、地域福祉のさらなる推進であります。これまで行ってきた敬老会に代わり、75歳以上の高齢者の皆様に地域通貨ネギーを支給することで、長寿への^{けいしゆく}慶祝と地域経済の活性化を結びつけるとともに、自主的な敬老会活動を支援するための補助制度を創設するなど、高齢者の皆様の活動の活発化に向けた新たな取り組みへの転換を進めることができました。

第4に、都市基盤、生活基盤への積極的な投資であります。南北交通の^{かなめ}要となる原郷上野台線及び国済寺土地地区画整理事業は、整備工事も最終段階に入るなど、まちの発展に向けた基盤づくりを着々と進めることができました。また、中央土地地区画整理事業につきましても、レンガ通りの整備を進めるなど、都市としての魅力も着実に高まってきているものと考えております。

第5に、産業の発展であります。地域内経済の発展を目的とした地域通貨ネギーにつきましては、流通額を倍増し地域の経済循環を大きく進展させることができ、また、念願であったプレミアム・アウトレットのオープンにより、観光回遊から地域活性化を誘導する拠点ことができました。今後も様々な事業を展開し、農業と観光による地域の活性化に取り組んでまいります。

最後に、積極的な行財政運営への取り組みであります。市役所新庁舎への移転を機に、窓口における手続きの見直しから生まれた、「書かない窓口」システムは、他の自治体から多くのお問合せをいただくほど、先進的な好事例こうじれいと評価されており、市民の皆様にも概ねご満足いただくことができました。併せまして、手続きのオンライン化も多くの事務で実施しており、こうした行政のデジタル化への取り組みも含め、市役所機能の利便性を大きく前進させることができたと自負しております。

こうした取り組みが、市民の皆様生活にゆとりや潤うるおいをもたらし、活気あふれる元気なまちとして、着実に実を結んできているものと実感しておりますが、まだまだ道半ばみちなかであります。

私は市長就任以来「深谷をもっと好きになってほしい、元気なまちにしたい」との思いを持ち続け、市政発展のため全力を尽くしてまいりました。今後も初心を忘れず、この4年間の総仕上げとなる最終年度として、「誰一人取り残さない みんながうれしい ふかや」の考えを貫き、さらには、「元気と笑顔の生産地 ふかや」の実現に向け、全力を尽くしてまいりたいと存じます。

それでは、議会開会の冒頭にあたり、私の市政運営に臨む基本的な姿勢を申し述べたいと存じます。

近年の自然災害や犯罪の多発、少子高齢化や人口減少など、今後も先行き不透明な社会情勢が続く中でも、未来に向けて持続可能な行財政運営が求められております。

私は、こうした状況に的確に対応するため、令和7年度は、「安全・安心なまちづくり」、「子育てに重点をおいたまちづくり」、「将来を見据えた投資」の3つの視点をもって、全力で市政にあたる所存であります。

第1に、「安全・安心なまちづくり」についてであります。

安全・安心は、生活するうえで最重要課題の一つであり、魅力的なまちづくりを進めていくために、まずは自然災害や犯罪などから、市民の生命・財産を守る取り組みを重点的に進めてまいります。

そのためには、地域防災力の要となる防災士の拡充が急務であり、これを積極的に進め、地域の防災リーダーとなる防災士を全自治会で配置できるよう、育成環境を充実させてまいります。具体的に申し上げますと、これまで養成所までの距離や時間、費用面で大きな負担がかかっていましたが、市が防災士養成機関として認定を受けることで、市民の皆様の負担を大幅に軽減し、防災士の増加を図ってまいります。さらに、取得後の防災士が地域で自治会等と連携し機能してもらえるよう、仮称・防災士連絡会を立ち上げ情報提供を行うなど継続した支援を行ってまいります。

また、強盗殺傷事件が全国的に発生している状況を踏まえ、防犯対策に有効な設備を設置した方に対し、費用の一部を地域通貨ネギーで補助することにより、防犯対策の強化と地域経済の活性化を図る取り組みを進めてまいります。

このほか、消防力の基盤整備と災害対応力の向上を図るため、花園分署の建設を行います。令和7年度は、工事設計等を進めてまいります。

第2に、「子育てに重点をおいたまちづくり」についてであります。

少子化により加速する人口減少を抑制し、持続可能で活力ある未来を築くために、子どもや若者世代にとって選ばれる、住みやすく、暮らしやすいまちになるよう子育て支援のさらなる充実を図ってまいります。

子どもたちが安心して遊び、学ぶことができ、保護者同士が交流できる「こども館」としての機能と、充実した幼児教育を提供する「幼稚園」としての機能を相互に活かした新しい形の施設、「幼稚園・こども館複合施設」の建設を進め、令和8年4月のオープンに向けた準備を進めてまいります。

また、保育施設での一時預かりの補助制度の創設、子育て世代を対象とした24時間無料のオンライン医療相談サービス、発達障害などを早期発見し就学支援の円滑化に繋げる5歳児健康診査を新たに開始し、安心して子育てができる環境を整備してまいります。

加えて、年々深刻化^{しんこくか}する夏の暑さ対策として、小中学校体育館のエアコンを早期に設置できるよう、令和7年度、中学校では設置工事を、小学校では設計を、それぞれ進めてまいります。

第3に、「将来を見据えた投資」についてであります。

まちに新たな魅力を生み出して次世代に繋いでいく、このことが今を生きる私たちの責務であり、今後も持続可能な深谷市、発展していける深谷市にしていくため、私は、将来を見据え積極的な都市基盤整備に取り組んでまいりました。

特に、令和7年度は市長として4期目の最終年度であり、任期の総仕上げの年であります。これまで進めてきたことが、実現に向けてまた一歩前進

し、将来に向けたまちづくりの確固たる基盤を築くことができるよう重点的に取り組んでまいります。

まちの骨格となる主要幹線道路の整備につきましては、南北交通の要となる原郷上野台線アンダーパスの整備が最終段階を迎えており、令和7年度は街路^{がいろ}の築造^{ちくぞう}工事を進めてまいります。

地域固有の文化財を守るとともに市民の憩^{いこ}いの場所として活用できるよう、歴史的に重要な幡羅官衙遺跡群^{はらかんがいせきぐん}につきましては、史跡整備に向けた基本計画の策定を進めてまいります。

また、ホフマン輪窯^{きゅうれんがせいぞうしせつ}につきましては、旧煉瓦製造施設を地域資源として深谷市内外へPRし、集客力を高める機能を併せ持つ管理活用施設の建設を進めるとともに、日本初、重要文化財ホフマン輪窯内でのレストラン誘致に向けた準備を進めてまいります。

以上、これら3つの視点を軸に令和7年度の市政運営を展開し、多くの方から今まで以上に深谷を好きになってもらい、魅力的なまちとなるよう、本市の未来を自らの手で積極果敢^{せっきよくかかん}に切り拓^{ひら}いていく強い気持ちで、令和7年度のスタートを切ってまいりたいと存じます。

それでは、本日ご提案いたします「令和7年度当初予算案」の概要につきましてご説明申し上げます。

まず、歳入の根幹である市税につきましては、景気の回復基調を受け、堅調^{けんちょう}に推移するものとし、190億円台を見込んでおります。

一方、歳出につきましては、福祉や医療などに係る扶助費の伸びや、人件費や物価高騰への対応に加え、これまで進めてきた基盤整備がピークを迎える等により、財政規模が大幅に増加しております。

このような状況下におきまして、令和7年度は、令和5年度よりスタートした第2次深谷市総合計画後期基本計画の中間年として各施策を着実に推進し、確かな成果に結びつけるための予算として編成したところであります。

その結果、令和7年度の予算案は、一般会計では過去最大となる、653億9,413万2千円、前年度に比べ13.5%の増、特別会計及び企業会計では328億9,469万4千円、前年度に比べ5.5%の増となったところであります。

令和7年度一般会計予算案の主な内容であります。まず、歳入のうち市税につきましては、193億428万5千円、前年度に比べ2.6%の増を見込んだところであります。また、地方交付税につきましては、85億1,340万円、前年度に比べ4.2%の増を見込んだところであります。

なお、各種基金からの繰入金や市債につきましては、事業執行のために所要の金額を見込んだところであります。

次に、歳出の主な内容であります。第2次深谷市総合計画後期基本計画に掲げた「まちのイメージ」に沿って、ご説明申し上げます。

はじめに、子育て・保健・福祉の分野「健康でいきいきと暮らせるまち」について申し上げます。

子育て支援に関しましては、引き続き保育料の完全無償化や0歳児子育て支援金の支給を行ってまいります。また、新たに保育施設での一時預かり利用者への補助制度を創設するとともに、就学前までに必要な支援に繋げるための5歳児の健康診査を実施するなど、子育て世代の負担軽減を積極的に進めてまいります。

さらに、こども家庭センターにおいて、新たに個々の家庭状況に応じた支援を行うことで、ヤングケアラーのいる家庭等に対する相談支援体制の一層の拡充を図ってまいります。

保健、健康づくりに関しましては、健康施策のさらなる推進を図るため「第3次深谷市健康づくり計画」の策定を進めるとともに、新たにオンラインによる医療相談サービスの提供を行ってまいります。

地域福祉に関しましては、互いに支え合う地域づくりを支援するため、令和8年度を^{しき}始期とする「第4次深谷市地域福祉計画」の策定に注力してまいります。

また、包括的な相談支援体制として整えた、福祉総合相談窓口「ふくしの窓口」をより一層活用し、日々複雑化、複合化していく市民の支援ニーズにきめ^{こま}細かに対応してまいります。

高齢者福祉に関しましては、高齢者の健康を守る施策として緊急通報システム事業の拡充や、深刻化する熱中症予防対策に引き続き取り組んでまいります。

また、令和８年度の「ねんりんピック彩の国さいたま^{にせんにじゅうろく}２０２６」ゲートボール競技の開催地として、プレ大会を開催し、本大会に向けた準備を進めてまいります。

障害者福祉に関しましては、物価高騰等による障害者の経済的な負担軽減を図るため、日常生活用具であるストマ装具の支援を充実するとともに、引き続き自動車などの燃料費や医療費の助成、各種手当の支給等を実施してまいります。

続きまして、教育・文化の分野「次代を担う人と文化を育むまち」について申し上げます。

幼児教育に関しましては、令和８年４月の幼稚園・こども館複合施設のオープンにより、新園舎での教育が始まります。令和７年度は本施設の建設工事の完了と、新園オープンに向けた準備を進めてまいります。

学校教育に関しましては、「栄一翁みらい宣言」や「こころざし読本」等、栄一翁を基軸としたふるさと教育のさらなる推進を図るとともに、「中学生補修学習ボランティア」の充実や「部活動の地域展開」の実施への取り組みを進めてまいります。また、不登校の児童・生徒を支援する不登校支援アドバイザーを配置し、学校総合支援員を増員するとともに、新たに、不登校児童・生徒が、友達や社会と繋がるためのきっかけとなる屋外体験型の事業を実施してまいります。そのほか、物価高騰に伴う小中学校の給食費補助につきましては、物価変動の状況を見ながら、引き続き対応してまいります。

学校施設の整備に関しましては、近年の夏の猛暑への対策をはじめ、災害時には、避難所として、快適な生活環境を確保できるよう、小中学校体育館にエアコンの設置を計画的に進めてまいります。

公民館に関しましては、令和7年4月より指定管理者制度による運営に移行いたします。公民館のさらなる利用促進と効率的・効果的な公民館運営を行えるよう、支援体制の構築に努めてまいります。

渋沢栄一翁関連事業に関しましては、紙幣発行1周年を記念して新たに「お札サミット」等を開催し、紙幣や栄一翁ゆかりの企業・団体と連携して講演会や物産展等を開催することで、誘客による地域の活性化を推進していくとともに、「渋沢栄一^{イコール}＝深谷市」というイメージのより一層の定着を図ってまいります。

文化振興に関しましては、国の重要文化財であるホフマン輪窯を含む^{きゅうれんがせいぞうしせつ}旧煉瓦製造施設の整備を進め、市の観光拠点として地域の発展に繋げてまいります。また、国の指定史跡である^{はらかんがいせきぐん}幡羅官衙遺跡群について、適切な保存及び周知活用のため、整備基本計画の策定に着手します。

続きまして、産業振興の分野「活力とにぎわいにあふれるまち」について申し上げます。

農業振興や農畜産物のPRに関しましては、農業従事者の減少や耕作放棄地の拡大といった課題解決に繋げていくため、「地域計画」を更新してまいります。また、深谷グリーンパークのさらなる有効的な活用を図るため、民間活力導入の検討を進めてまいります。さらに、様々な機会を通じて、深

谷ねぎや深谷ブロッコリーなどの「ふかやの野菜」をはじめとした農畜産物を広くPRすることで、深谷産ブランドのイメージ向上を図ってまいります。

商工業の振興に関しましては、起業に要する経費への補助を拡充するとともに、中小企業による経営革新計画の策定を促進するため、引き続き奨励金を交付し、市内産業の振興を図ってまいります。

また、雇用の創出等による市内経済の活性化を図るため、その核となる新たな産業集積拠点の開発を目指し、寄居スマートインターチェンジ周辺における調査を行ってまいります。

観光振興に関しましては、市内を訪れた観光客に、市内を回遊していただけるよう、「ベジタブルテーマパークフカヤ」の取り組みを引き続き実施してまいります。

産業価値の創出に関しましては、地域通貨ネギーを活用し、ネギーチャレンジの取り組み等により、市民の行動変容を促しながら、市内経済の活性化を図ってまいります。

続きまして、暮らし・環境の分野「安心とやすらぎを感じられるまち」について申し上げます。

防災対策に関しましては、地域防災のリーダーとなる防災士を育成し、地域防災力の向上を図ってまいります。また、引き続き、各種訓練の充実や防災情報の周知に努め、市民の皆様の命を守る取り組みを行ってまいります。

消防・救急体制に関しましては、常に有効適切な消防力を保持し、災害対応力の向上を図るため、花園分署の建替えに向け設計等を進めてまいります。また、高規格救急車の配備等を進め、救急体制のさらなる充実に努めてまいります。

防犯に関しましては、防犯に有効な設備の設置にかかる費用を助成し、自助による防犯対策と防犯意識の醸成を図ります。

空き家問題に関しましては、農地付き空き家に対するリフォーム補助を推進するとともに、老朽化した危険な空き家の解体に対する補助や、地域活性化の用途として空き家を利用する際の改修費を補助する「深谷市空き家利活用補助金」を新たに創設し、空き家の解消及び利活用を図ってまいります。

自治会活動に関する支援に関しましては、引き続き自治会館の改修費用などの補助を行い、地域コミュニティを醸成するための支援を行ってまいります。

環境対策に関しましては、引き続き、ふかやeパワー株式会社と連携してエネルギーの地産地消に向けた取り組みを進めるほか、住宅用省エネ設備などの購入に対し補助金を交付するとともに、環境に配慮した公用車を導入するなどゼロカーボンシティの実現に向けた取り組みを進めてまいります。

また、特定外来生物である「クビアカツヤカミキリ」による生態系への影響を抑えるため、クビアカツヤカミキリの被害木の伐採に対する補助制度を新たに創設してまいります。

続きまして、都市・生活基盤の分野「快適で利便性の高いまち」について申し上げます。

市街地整備をはじめとした住環境の形成に関しましては、引き続き都市計画マスタープランや立地適正化計画に基づいた都市基盤整備を実施してまいります。

土地区画整理事業に関しましては、中央土地区画整理地区において着実に事業を進めるとともに、国済寺土地区画整理地区では、引き続き調整池^{ちょうせいち}の整備工事を完成に向けて実施し、よりよい居住環境の確保に努めてまいります。

水道の整備に関しましては、震災などの災害時に重要な役割を担う医療機関や防災拠点への水道管の耐震化などを引き続き進めてまいります。

また、水道水の安定供給のため、本田配水場の機能拡張に着手してまいります。

下水道の整備に関しましては、引き続き、小前田地区及び八幡地区の整備を進めてまいります。

農業集落排水の整備に関しましては、三浦地区集落排水処理施設の機能強化事業を引き続き進めてまいります。

道路の整備に関しましては、緊急時や災害時における緊急用車両の通行、道路冠水の解消等のため、狭^{きょう}あい道路や未舗装、未改良区間の道路整備等を実施してまいります。このうち、深谷商業高校西側の国道17号稲荷町交差点から、上柴地内の日赤通りへと繋がる市道幹36号線につきまして

は、一部区間が一方通行になっておりますが、道路拡幅等を行い、これを解消してまいります。

また、深谷の南北交通の円滑化を図るため、原郷上野台線の整備について、アンダーパスアプローチ部の工事を進めるほか、中心市街地のレンガ通りについて引き続き整備を進め、良好な景観形成に繋げてまいります。

加えて、国道１７号深谷バイパスにおける暫定２車線区間について、新規事業化し早期に４車線化を図るため、国に要望するとともに、県道成塚中瀬線についても、早期整備に向けて県に働きかけをしてまいります。

橋りょうの整備に関しましては、深谷市橋梁^{きょうりょう}長寿命化修繕計画に基づき、優先度の高い橋りょうから計画的に修繕を実施し、安全性を確保してまいります。

公園の整備に関しましては、仙元山公園再整備を進めるため、仙元山公園の基礎調査を行い、施設の状況等を把握してまいります。

河川の整備と排水対策に関しましては、冠水対策として引き続き、豊里地区の雨水調節池^{ちようせつち}の整備及び高畑地区の道路改良工事を実施してまいります。また、新たに川本明戸地区についても、冠水対策として雨水調節池^{ちようせつち}整備のための実施設計に着手してまいります。

公共交通に関しましては、引き続きＪＲ東日本高崎支社との岡部駅橋上化に向けた協議を進めてまいります。また、コミュニティバス「くるリン」の再編を進めるとともに、公共交通におけるドライバー不足の解消に向け「深谷自動運転実装コンソーシアム」と連携して、自動運転バス運行に向けた実証実験を進めてまいります。

さらに、公共交通サービス維持のため、新たにバス^{はいしろせん}廃止路線^{だいたい}の代替として、深谷駅北口から籠原駅北口間の民間路線バスに対する補助を行ってまいります。

最後に、協働・行政経営の分野「みんなで^{つく}創る協働のまち」について申し上げます。

人権問題に関しましては、令和6年度に新たに制定しました「深谷市犯罪被害者等支援条例」に基づき、関係機関と連携し犯罪被害者への支援を実施してまいります。また、多様な性に対する理解不足による差別や偏見などの課題に対応していくため、引き続き各種取り組みを行ってまいります。

移住定住に関しましては、まちづくりを通して、市の魅力を高めることを基本としつつ、深谷市のPRに注力するとともに、引き続き移住支援金や結婚新生活支援金制度により、移住定住の促進を図ってまいります。

情報発信に関しましては、引き続き、市ホームページや広報ふかやに加え、「深谷市公式^{ライン}L I N E」など様々な手段を活用して、市民のニーズに合わせた旬な情報を発信してまいります。

協働のまちづくりに関しましては、引き続き、ウェブサイト「^{わざかつ}技活」による人材バンク登録者の動画紹介を行い、活用希望者とのマッチングを図ってまいります。

また、「ふかや花フェスタ」においては、会場を「深谷城址公園」に戻して開催し、引き続き「花のまちふかや」の発信を行い、市内回遊へと繋げてまいります。

シティセールスに関しましては、深谷市イメージキャラクターである「ふっかちゃん」の誕生１５周年を迎えますので、ふっかちゃんを通じてより一層本市の魅力を発信し盛り上げられるようＰＲに取り組んでまいります。

また、令和７年度は、１市３町の合併による新たな深谷市の誕生から、２０周年の節目の年となります。新市誕生２０周年を市民の皆様とお祝いするとともに、これからの未来に向けた出発点とするため、先に述べました渋沢栄一翁関連事業等と連携して、「深谷市誕生２０周年」の気運の醸成を図ってまいります。

行政デジタル化の推進に関しましては、全国的な取り組みであるシステムの標準化業務を確実に進めるとともに、「書かない窓口」の拡充や各種手続きの「オンライン申請」の普及、「生成ＡＩ」活用の検討を進めてまいります。

行財政運営の推進につきましては、庁内の一部に導入した電子契約を市役所全庁に拡大し、内部事務、契約相手方の事務の効率化及びペーパーレス化を図ってまいります。

また、市有財産の適正管理と最適化を推進するため、「深谷市公共施設適正配置計画」に基づき、岡部^{ビーアンドジー}Ｂ＆Ｇ海洋センターのマイナス入札や旧川本総合支所の跡地利用に向けた準備などに取り組んでまいります。

さらに、自主財源の確保を積極的に進めるため、引き続き企業版及び個人版のふるさと納税制度などを有効に活用し、持続可能な行政運営を推進してまいります。

以上、歳出などの主な内容につきまして、ご説明いたしました。

栄一翁は、「目的には、理想が^{ともな}伴わねばならない。その理想を実現するのが人の^{つと}務めである」という言葉を残しております。これは、^{めさき}目先の目的だけでなく、目的を達成した先に向かうべき夢や理想を持つことが重要であるという意味と^{とら}捉えております。

私はこの栄一翁の志を受け継ぎ、引き続き市民の皆様と共に「誰一人取り残さない みんながうれしい ふかや」という理想を実現すべく、全力を^{けいちゅう}傾注する所存であります。

そのために、深谷市らしいまちの魅力を高め、活力と希望に満ちた持続可能なまちづくりを前に前に進め、そして、未来に引き継いでいく役割と責任を果たすよう全身全霊をもって取り組んでまいりますので、議員並びに市民の皆様のより一層のご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

以上で、私の令和7年度施政方針の表明といたします。

※この文章は口述筆記ではありません。

表現その他に若干の変更がありました場合は、ご了承ください。

